

(様式 1 - 表)

令和 5 年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	58	豊田市立 本城小 学校	代表	鈴木文与志
------	----	-------------	----	-------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、i：その他（ ）】から選ぶ。

テ ー マ	ふるさととひと・こと・ものに愛着をもち、地域を拓く子どもの育成	分野	b	地域連携
サブテーマ	ふるさと学習・城山学習を通して、子どもの社会力を育てる	i(その他)は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点（ねらい）	<p>本校がある小原地区には、「小原和紙」「おはやし」「小原歌舞伎」などの伝統文化が現在に伝わり、文化継承の拠り所となっている。また、「四季桜」は小原地区で愛されている植物（花）であり、毎年 1 1 月には「四季桜まつり」が開催され、小原地区の伝統行事となっている。</p> <p>しかし、年々過疎化・高齢化が進み、小原地区の児童生徒数は減少してきており、地域の活力が失われつつある。そのため、人と人がつながってよりよい社会（地域）を作ろうとする力である「社会力」を小学校段階から育てることが重要と考える。</p> <p>そこで、小原地区の伝統文化を学び継承すること（ふるさと学習）、地域の「ひと・もの・こと」を生かした学び（城山学習）を通して、子どもたちの地域理解を深め、地域への誇りや愛着を育てる。また、自分たちのふるさと「小原地区」の未来を考え、より豊かで住みよい地域へと発展させていこうとする児童の意欲を高めていきたいと考える。</p> <p>さらに、地域をよりよくするために、学んだことを積極的に発信したり、地域に働きかけたりするなど、地域の役に立つ活動や地域を発展させる活動に取り組むことで、子どもたちの「社会力」を育てていきたいと考える。</p>			
活動内容・計画	<p>◆ふるさと学習として地域や本校の伝統文化である「小原和紙」「本城打ちはやし」「小原歌舞伎」を取り上げ、活動する。</p> <p>①「小原和紙」</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階を考え、全学年で小原和紙を取り入れた個性豊かな作品づくりに取り組む。その過程で、地域講師の指導を受けながら、和紙制作の伝統的技術を学び継承する。また、完成した作品は「小原地区子ども和紙作品展」に出品したり、地域の施設に展示したりして、地域の方々に子どもたちの取組の成果を見ていただく。 6 年生を中心に全校児童が、和紙を使って「軽トラあんどん」作品を制作し、地域を盛り上げる活動に参加する。 <p>②「本城打ちはやし」</p> <ul style="list-style-type: none"> 約 4 0 年前に豊田市日面町の「おはやし」を習ったことで始まった「本城打ちはやし」に、全校児童で取り組み、運動会・四季桜まつり・卒業式などで発表する。また、「打ちはやし」の演奏・発表を通して、「社会力」「発表力」「表現力」を育成する。 <p>③「小原歌舞伎」</p> <ul style="list-style-type: none"> 保存会の支援を受け、小原歌舞伎の歴史を学んだり、隈取や所作・口上を体験したりすることを通して、地域に受け継がれる農村文化を学び、歌舞伎への興味関心を高める。 <p>◆城山学習として、地域の「ひと・もの・こと」についての学びを生活科・総合的な学習の時間に位置付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 米づくり、野菜づくり、四季桜、小原和紙、小原地区の史跡などについて、地域の方から学び、地域理解を深め、地域への誇りや愛着をもつとともに、お世話になった方への感謝の気持ちをもてるようにする。また、学習の成果を保護者をはじめ広く地域にも発信し、地域をよりよくしていく活動へとつなげていく。 <p>○「城山学習」（総合的な学習の時間・生活科）</p> <ul style="list-style-type: none"> 前期・・・学年テーマに迫る課題を設定し、地域素材にかかわる学びを通して、追究を深める。 後期・・・学んだことをまとめ、発表方法を工夫し、学習発表会等の場で学びの成果を発表する。 			
補助員配置	<p>・体力向上補助指導員 ・校内整備員</p>			
実績・期待される効果	<p>①「小原和紙」や「本城打ちはやし」「小原歌舞伎」という地域の伝統文化について体験を通して学ぶことで、そのすばらしさを実感し、その技能を身に付け、自分たちが住む地域（小原地区）に愛着と誇りをもつようになる。（「We Love OBARA」「We Love HONJO」の気持ちをもてるようになる。）</p> <p>②「打ちはやし」では、篠笛の吹き方や太鼓の打ち方などを上学年児童が下学年児童に教えるという子ども同士の関わりを通して、温かな人間関係を築けるようになる。また、保護者や地域の方の前で発表する体験を通して、児童は表現力を高めるとともに、地域の活性化に役立っているという自己有用感を感じるようになる。</p> <p>③地域や地域の人から学び、その生き方にふれることで、キャリア教育を推進する。また、子どもたちはお世話になった方への感謝の気持ちをもつとともに、地域がよりよくなってほしいと願い、そのための方法を考え、地域に発信したり、実際に行ったりするようになる。</p>			
検証方法	<p>○「和紙制作」「打ちはやし」「小原歌舞伎」「城山学習」等について、児童の取組の様子・感想や学校外部評価（地域・保護者の声）などから、児童の「ふるさとへの愛着と誇り」「表現力・発表力」を育てることにどの程度有効であったかを検証する。</p> <p>○「学習発表会」を実施し、学んだことを発表する児童の姿から、児童の「社会力」を高めることにどの程度有効であったかを検証する。</p>			